

令和5年度 園の自己評価

令和6年3月22日
チャイルド・リンク保育園
文責：研修係

今年度は、「育児担当制」「1日保育士体験（1日ふれあいデイ）」「各係による園内研修の計画」「延長保育の停止」等々、多くの新たな取り組みを始めた年だった。疑問に思ったこと等は、職員間で話し合い、共有することを心掛けた。

これらのことを受けて、「自己評価」について、職員全体で取り組む形が見えてきた。園内研修も職員が積極的に参加し、学び合うことで、一人一人の働きを尊重することができてきたように思う。

それぞれの取り組みを通して出た課題を、次に活かしていきたい。

計画・取り組み（実践）・課題

○延長保育の停止

今年度から、延長保育を停止した。子どもの最善の利益を追求してのことであるが、職員の処遇改善にもなった。シフトが、7時から18時までとなったことで、これまで以上に、ゆとりが与えられた。リフレッシュする時間や、学ぶ時間、また、プライベートの時間等、たっぷりとることが出来るようになった。

○法人理念

今年度も、年度初めに、法人理念の園内研修を行い、全職員で共通理解を図るように取り組んだ。自分自身を振り返る時、常に、法人理念に立ち返り、確認する機会となっている。

「祈り」と「聖書の言葉」を身に着け、子ども達の為にまず、職員一人ひとりが、成長できるように、今後も、皆で努力していきたい。

○育児担当制（0，1，2歳児）

担当保育士が、着替え等の生活支援は、子どもと1対1で関わる育児担当制を本格的に導入した。一番の変化は食事時間である。同じ空間の中で、食事している子・遊んでいる子・眠っている子があり、穏やかな時間が流れている。保育士が子どもの口や手等の動きを観察し、発達に応じた支援がスムーズになり、子ども一人一人への言葉掛けが増えたと実感している。今後も、職員間で意見交換を行い、育児担当制について学びを深める必要がある。

○一日保育士体験（一日ふれあいデイ）

今年度より、1日保育士体験を保護者参加行事のメインとした。保護者をまきこむために、子どもの1日の様子を伝えて関心を持ってもらったり、誕生会に合わせて参加してもらう等、工夫してきた。子どもの様子や生活の流れ、保育者の働きかけを目のあたりにしてもらうことで、普段見られない子どもの姿が見えたり、新しい発見や気づきを持ってもらえた。嬉しいことに父親の参加が多く、その中での課題も見えてきた。（事前にねがいを伝える、エプロン、トイレ等）

○園内研修+自己評価

・「安全」

4月に行った「保育環境のチェック」では、子ども目線を意識することで、今まで気づかなかった多くのことを教えられた。その気づきを基に、子どもの発達に即し、より安全な環境の改善へ取り組んだ。12月の「救急対応シュミレーション」は、初めての取り組みだった。実施してみなければ気づけない、多くの学びや課題が見えてきた。今後、それらを改善していきながら、いつ起るか分からない緊急事態に備えられるように取り組んでいく。

・「保健衛生」

今年度も、嘔吐物処理の実践をロールプレイング形式で行った。実践からあがった声を基に物品セットを改良した。慌てず対応することが課題であり、繰り返しの練習が大切である。また、救急救命処置については、昨年度の課題であがった『園のマニュアル』を安全係と組んで作成した。全職員が、躊躇することなく心肺蘇生ができることが課題。そのためにも訓練を重ねていく。

・「食育」

厨房スタッフが初めて講師となり、基本的な衛生管理について学ぶ機会となった。また、保育現場でのクッキングでも、衛生管理の意識を持つことの大切さを職員間で共有することができた。研修後、チェックリストを作成し、検温用の温度計も購入した。

さらに、食育係担当の研修では、前回の研修内容を確認しながら、50gの検食、中心温度の検温を実施し、実際のクッキング場面を想定した実践的な研修を行うことができた。

・「図書」

今年度は、図書係が研修担当を担う機会をいただいた。初の取り組みは、職員や保護者の読み聞かせの姿を通して学びを得ることから始めた。振り返りの時間は、活発に意見が飛び交った。良かった点と改善点に気付かされたことは、すでに日々の保育に活かされている。次に繋げるため、絵本のカリキュラム作成が求められる。